

体験してみよう

ゲームマーケット2026 秋

日本の郷土ゲーム!

遊びで全国を旅してみよう



10.18 2026 日限定 11:00 ~ 17:00

スタンプラリー開催!!

郷土ゲームを体験し、スタンプを集めて景品をゲットしよう!

幕張メッセ 展示ホール 3 特設ブース 13

日本の郷土ゲーム!

青森県五所川原市ほか / 札のゲーム(トランプ)

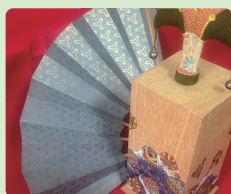


ゴニンカン

“青森県民の深〜い関係”

青森で昔から遊ばれている5人のトリックテイキングゲーム。AKQJの16枚の絵札を2人の「カンケイ」と3人の「ムカンケイ」が熾烈にやり合う。素早く仕掛ける「スコンク」とそれに続く「十六」が醍醐味。

東京都台東区浅草ほか / 動作のゲーム(投てき)



投扇興

“扇が一閃、雅な見立て”

江戸時代中期に、投壺という古代の遊びから京都の粋人が考案したと伝えられる歴史のある遊び。

的に正確に当てるのが目的と思われやすいがそうではなく、落ちた扇の姿を源氏物語五十四帖になぞらえて見立てて採点する雅びたゲーム。



東都浅草投扇興保存振興会
登録支部「じゃが連」

石川県鳳珠郡能登町宇出津 / 札のゲーム(駒札)



ごいた

“その魅力に取り憑かれると駒が離せない”

明治初期から石川県能登町宇出津にのみ伝わってきた伝承遊戯の粋「ごいた」。日本のゲームには珍しい、ペアで互いの意志が通じ合った時の面白さは他のゲームに代えがたい。いつまでもプレーしていたくなる面白い遊び。



能登ごいた保存会

石川県金沢市 / サイコロのゲーム

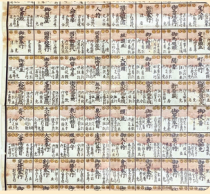


旗源平

“独特の囃し言葉で盛り上がる伝統ゲーム”

加賀藩の時代より武士から庶民まで正月遊びとして伝承された、文字通り郷土のゲーム。源氏と平家に分かれ、賽を振り合って大旗・小旗、そして繯を取り合う。加賀ならではの囃し言葉で大いに盛り上がることも間違いなし。何と言っても前田様の御紋、梅が一番!

石川県金沢市 / 盤のゲーム(すごろく)



加賀藩職制双六

“江戸時代の研修ゲーム？”



前田土佐守家資料館



18 ワードゲーム部／加賀藩職制双六
＜遊び方ガイド＞

加賀百万石前田家の分家、前田土佐守家に江戸時代から伝わる「絵双六」。一種の出世双六で、振り出しである「新番」から数々の役職を経由して殿様の側近「御用番」に昇りつめて上りとする。しかし道中双六のような、賽の目の数値通りに進む回り双六ではなく、目の指定するマスに飛ぶ「飛び双六」。

若手の武士、あるいは武家の子弟の教育用だったとも言われる。

長野県北佐久郡軽井沢町 / 動作のゲーム(指はじき)



信州クロック

“信州の木が弾む熱狂盤”



あそび堂

駒と盤を使用したおはじきゲーム。カナダ発祥で、日本には宣教師を通して明治時代に伝わったとされる「クロキノール」を基にしている。長野県松本市を流行発信地として「クロック盤」「闘球盤」の名前で人気を博し、昭和天皇のご幼少時代に興じられた記録が残るゲームを、長野県産の木材で制作。

長野県北佐久郡軽井沢町 / 盤のゲーム(ボードゲーム)



信州モリス

“木の温もりと頭脳戦”



あそび堂

駒を盤に配置して戦う1対1の2人用ゲーム。古代ローマ帝国時代から遊ばれている世界最古のボードゲームの一つ「モリス」を長野県産の木材で制作。

岐阜県多治見市 / 盤のゲーム(ボードゲーム)



モザイク

“ゲームシステムと伝統技術の出会い”



モザイクゲームズ

昔から有名な伝統の焼き物技術と、巧みなゲームシステムがここ多治見で出会った。伝統の技術は新たな用途に向かって広がり、面白くて深いゲームシステムは美しいコンポーネントを得て深みを増す。新たに生れ出た郷土のゲーム。

日本の郷土ゲーム!

静岡県遠州地方 / 札のゲーム(花札)



遠州花

“相場が揺らす、勝負の行方”

花札おみつ屋



猪牡忠臣(ししぼちゅうしん)とも呼ばれる、200種を超える花札遊びの中でも、今では珍しい存在。勝敗を分けるのは札運だけではない。「相場(掛け金)」を巡る駆け引きや独特の作法、緊張感ある勝負を生む。猪・牡丹、そして忠臣蔵の悪役「斧定九郎」に由来する、花札愛好家をも唸らせる花札。

滋賀県彦根市 / 動作のゲーム(指はじき)



カロム

“彦根の巧みな技の結晶”



日本カロム協会

おそらく明治期に海外から伝わり、なぜか彦根で熟成して定着し、長く愛され遊ばれ続けた高度なおはじき。狙いや弾き方の正確さのみならず、互いの駒の位置関係から巧みな作戦を生み出す、技術と頭脳のゲーム。

京都府ほか / 盤のゲーム(すごろく)



盤双六

“千年の歴史の重み”



日本バックギャモン協会(盤双六)

飛鳥時代に日本に伝わり、千年の間、人々を熱中させた和風バックギャモン「盤双六」。二個の賽を交互に振って十五個の自分の駒を進め、全て自陣に戻す。このとき互いの駒の進行が交差することで戦略とドラマが生まれる。

京都府 / 札のゲーム(貝探し)



貝覆い

“平安貴族の戯れをあなたも”



一般社団法人 貝合貝覆文化協会



tomoko_wisteria_sato

平安時代～江戸時代に貴族や大名家、商家の女性たちの間で遊ばれていた遊び。色や形が揃った日本の蛤の貝殻を使用する。蛤貝は二枚貝で左右外側の柄は似通っており、この特性を活かし、貝殻の外側の柄を観察し蛤貝の元の相方を探す。まず、蛤の貝殻を出貝地貝にわけ、地貝を円形に並べる。出貝は貝桶もしくは貝箱に入れる。円形の中央に出貝を一枚伏せて置き、中央の貝の相方を円形に並んだ貝から探す。貝を沢山探せた人が勝ちとなる。

奈良県／盤のゲーム(すごろく)



かりうち

“出土した日本古代のゲーム”



奈良文化財研究所
(かりうちプロジェクト)



橋本印刷版

二面賽を四つ振って自分の駒四つを上りにもっていく、日本古代の回り双六。時代は思い切り飛ぶが、四枚の金將を振って将棋盤の外周を回る振り将棋のよう。長い長い年月、土の下に埋もれていた「かりうち」で遊ぶと、古代人の心が分かるかも。

熊本県多良木町ほか／動作のゲーム(じゃんけん)



球磨拳

“手練の指ワザで競う世界一むずかしいじゃんけん”

球磨拳



おそらく明治期に海外から伝わり、なぜか彦根で熟成して定着し、長く愛され遊ばれ続けた高度なおはじき。狙いや弾き方の正確さのみならず、互いの駒の位置関係から巧みな作戦を生み出す、技術と頭脳のゲーム。

鹿児島県始良市ほか／動作のゲーム(数あて)



薩摩なんこ

“九州南部の剛毅な遊び”

旧薩摩藩に古くから伝わる酒席の遊び。2者がお互いになんこ珠を3本ずつ後ろ手に持ち、0～3本を片手に隠して前に出し、お互い前に出した珠の数を当てる簡単ようで深い心理戦。淵源は中国漢代の「藏鉤」にまで遡るとまで言われる伝統のゲーム。酒席では負けたら焼酎を呑むが、焼酎呑みたさにわざと負ける人も…。

沖縄県うるま市具志川／札のゲーム(カード)



島札

“江戸時代の技法を今に残す”



カフェ&ゲームバーことばき
(島札販売店)

沖縄の具志川にのみ伝わる、江戸時代のルールを今に伝えるメクリ技法。札はともに見やすく、ルールはシンプルかつ花札の基礎中の基礎なので分かりやすい。3人はもちろん4人でも遊べるのは魅力。

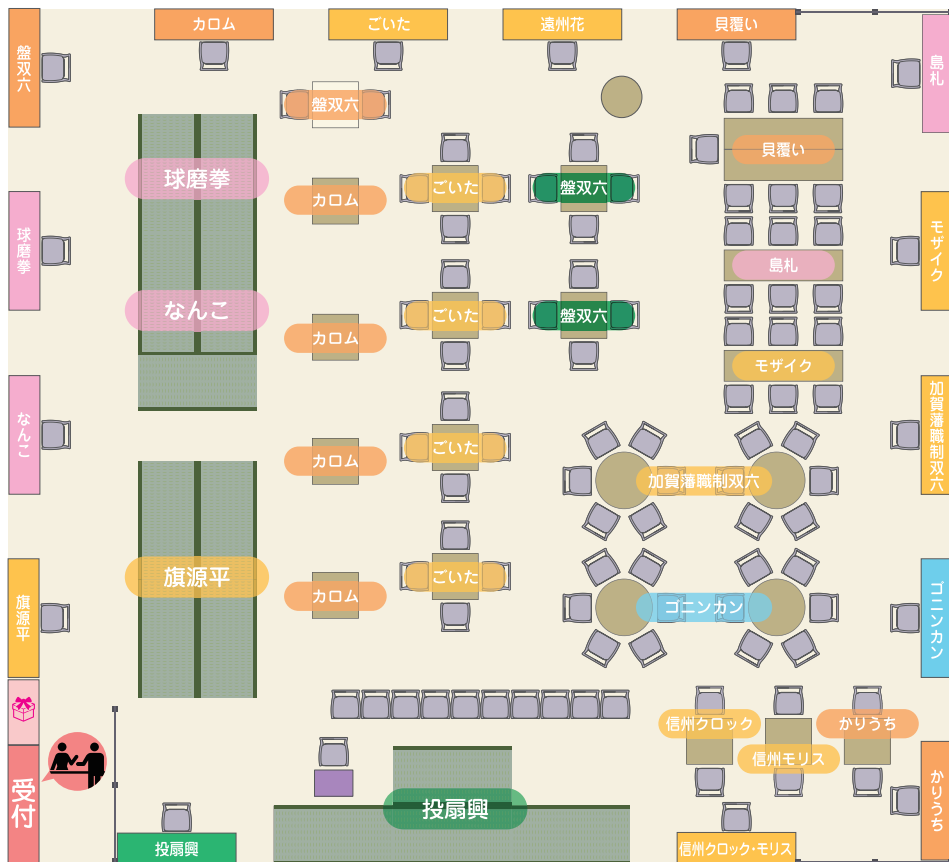
日本の郷土ゲーム!

フロアガイド

伝統ゲーム体験の受付、景品脳交換など
「伝統ゲーム受付」で行ってます。

スタンプラリー開催!!

郷土ゲームを体験して、スタンプをあつめよう!



「郷土ゲーム」とは?

日本各地の特定の地域で古くから愛され遊ばれているゲームや、地域の産業や特色を活かして開発されたゲーム。

特に古くから遊び継がれている「郷土ゲーム」は、歴史や風土、文化的背景を特徴とした独自のルールや遊び方があり、特定地域を発祥として全国的に有名なゲームもあれば、地元のみでしか知られていないゲームもあります。

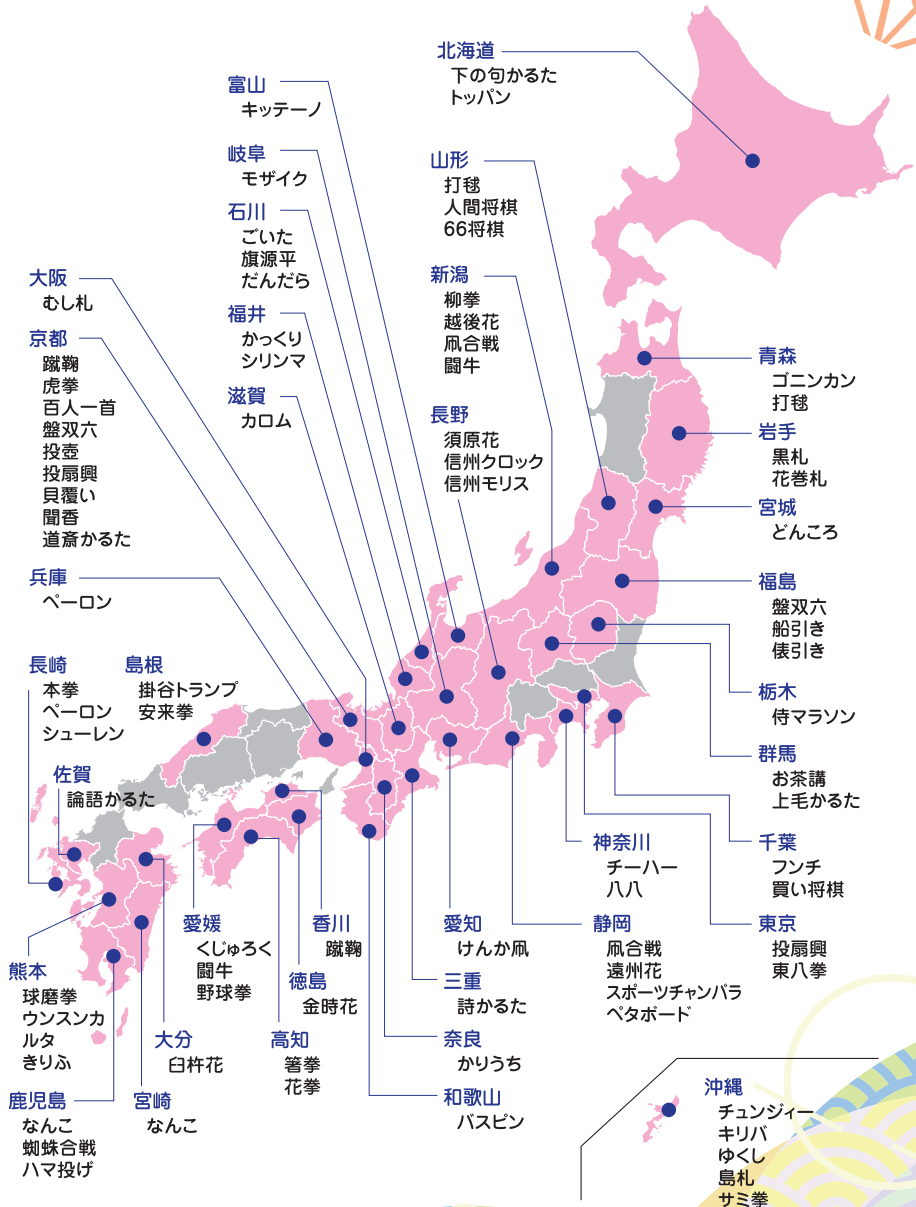
近年、多くの「郷土ゲーム」は愛好家の減少に直面し、未来への継承が危ぶまれているゲームも少なくありません。このような状況から、保存会の設置など地域をあげて伝統文化の存続に取り組む動きも見られています。

なぜ、市場調査の矢野経済研究所が「郷土ゲーム」を支援しているのか?

矢野経済研究所では、アナログゲーム市場の動向を調査研究する中で「郷土ゲーム」の文化的価値を再発見、全国各地に伝承される「郷土ゲーム」の普及を通じて地方の活性化をはかる取り組みをスタートさせています。その一環として、日本最大規模のアナログゲームイベント「ゲームマーケット」で、全国の「郷土ゲーム」を集めた特設ブースを出展し、ゲームの紹介、展示、販売、体験会などを実施します。

今後も、「郷土ゲーム」の研究、発掘、発信、普及、保存、開発、活動支援等を通じた地域活性化事業を推進していきます。

日本全国の郷土ゲーム





スタンプラリー開催中!!

郷土ゲームを体験または購入して **スタンプ** を集めよう!

ゴニンカン	投扇興	ごいた	旗源平	加賀藩職制双六
信州クロック	信州モリス	モザイク	遠州花	カロム
盤双六	貝覆い	かりうち	球磨拳	なんこ
島札	スタンプラリー詳細は当日ブース受付でお尋ねください - 各郷土ゲームのスタッフに、この用紙の該当する枠にスタンプを押してもらってください。 - ご提供できる景品には限りがございます。 - 景品がなくなり次第、景品の配布は終了となります。ご了承ください。なお、スタンプラリーに関しては終日継続いたしますので、ふるってのご参加をよろしくお願い申し上げます。 - スタンプの不正取得等が発覚した場合は無効とさせていただきます。 - 景品の転売等とはご遠慮ください。			



アンケートにご協力ください

本日は、郷土ゲームブースにお越しいただき、ありがとうございました。
今後の参考にさせていただくため、簡単なアンケートにご協力ください。



草場 純

一般社団法人アナログゲーム
ミュージアム運営委員会
代表理事

元小学校教諭。1982年に仲間とゲームサークル「なかよし村とゲームの木」を設立。以来毎週土曜に例会を開き、2026年10月17日で2275回を数える。2000年にゲームマーケットを立ち上げ、2009年まで主催。2021年にはアナログゲームを保存研究する「アナログゲームミュージアム」を創設。



片岡 一豊

株式会社矢野経済研究所
Xbusiness
マネージャー／主任研究員

矢野経済研究所でスポーツ用品市場の調査を担当後、Xbusinessでオタクビジネスを担当。現在は郷土ゲームの普及・継承・研究を通じ、地域文化の価値を再発見し次世代へ伝える新規事業を推進中。さらに、伝統遊戯を現代に適応させ、地域活性化と文化継承を両立する仕組みづくりに挑戦している。

お問合せ



株式会社 矢野経済研究所

全国郷土ゲーム振興協会 株式会社矢野経済研究所内

会長：片岡 一豊 E-mail: kkataoka@yano.co.jp